

日汉对照

心灵日文系列

懂你

——震撼你心灵的亲情故事

杜鹃 主编

震撼心灵的亲情故事 温暖一生的永恒经典

这是一本让无数人潸然泪下的书，书中的每一个亲情故事都曾经感动过千万读者，震撼过亿万心灵；朋友，你是否很久未曾感动了？轻轻翻开这本书吧！我坚信，你一定会被深深震撼，因为只要静静阅读本书，再坚强的人也会落泪……



中国宇航出版社



H369.4:1

1

懂你

——震撼你心灵的亲情故事

主编 杜 鹃

编委 邓 欢 方 璐 张 慧 赵 贺 郑 岚



中国宇航出版社

· 北 京 ·

版权所有 侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

懂你：震撼你心灵的亲情故事 / 杜娟主编.

— 北京：中国宇航出版社，2008.7

(心灵日文系列)

ISBN 978-7-80218-392-6

I. 懂… II. 杜… III. ①日语—汉语—对照读物②故事—作品集—世界 IV. H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 079011 号

策划编辑 李士振 装帧设计 03 工舍

责任编辑 李士振 责任校对 梁晓霞

出版 中国宇航出版社

社址 北京市阜成路8号 邮编 100830
(010)68768548

网址 www.caphbook.com/www.caphbook.com.cn

经销 新华书店

发行部 (010)68371900 (010)88530478(传真)
(010)68768541 (010)68767294(传真)

零售店 读者服务部 北京宇航文苑
(010)68371105 (010)62529336

承印 北京嘉恒彩色印刷有限公司

版次 2008年7月第1版 2008年7月第1次印刷

规格 880 × 1230 开本 1/32

印张 9.5 字数 255千字

书号 ISBN 978-7-80218-392-6

定价 19.80元 (附赠全文MP3光盘)

本书如有印装质量问题，可与发行部联系调换

前言

喧嚣浮世，多希望有个宁静的港湾。

世事沉浮，多希望留住永恒的瞬间。

当身处险境难关，多希望有个人能为我们呐喊助威。

当形影相吊，孤寂难耐，多希望有个人，能为我们打湿的心灵，撑起雨伞……

围绕着爱情、亲情、友情展开的这三辑故事，演绎着人生最核心的情愫，诉说着世间最动人的心声。静夜里轻启书页，鲜活的人物纷至沓来——酸甜苦辣、泪笑欣悲，于是我们从故事中看到生活，又在生活中，创造故事。

读这本书，其实是用心灵去感悟月的朦胧、星的灿烂、花的嫣然、泪的晶莹、叶的飘逸，还有生命的沧桑和美丽。书海茫茫，孤舟独荡，任意东西，实为快哉。开启扉页，缕缕的墨香如醇醇杨柳风，让心花悄然绽放，散发出无数感悟的诗行，随着一页页地翻过，书的妙味连同它的芳香会浸入肌肤；你的情绪也在意境中飘遥、远航……

篇篇文章，淡若菊香，沁人心脾，回味悠长。每篇文章都由文章导读、优美日文、精彩译文、热词空间、心灵小语五个部分

组成，环环相扣，交映生辉，相信在提高日语阅读能力的同时，您的心灵也将得到一次净化。

我们为您精心奉献的双语真情故事，为寻素材多方求索，为造佳句字斟句酌。更有相互切磋，热烈陈词，最终虽精益求精，仍嫌不够百分圆满。然译道无止境，惟尽心而为之，愿读者在这次美文徜徉中，于心灵深处得到一份真正的快乐。

本书所附MP3光盘收录了所有文章的朗读，由北京外国语大学外国专家倾情奉献，相信他们的纯正标准的发音，在您欣赏美文的同时，对您的口语、听力也有着潜移默化的影响。

亲爱的读者，让我们一起给自己的心灵洗个澡吧，一起为疲惫的心灵营造一个温馨、自然、优雅、恬淡的美丽空间吧。让我们一起去感受人间的至情，为自己的生活多一点感动、多一点温馨的回忆……

杜娟

2008年暮春于北外

目 录

第一篇 感悟父爱

父との会話	2
品味父爱	5
お互いの関係のパロメーター	8
心灵的礼物	9
父親をどれだけ見ているのか	12
聆听父亲的教诲	13
父のだし巻き玉子	16
父亲的汤汁鸡蛋卷	17
弁当箱の思い出	20
饭盒的回忆	21
雛がない	23
没有布偶	25
片思いのプレゼント	28
一厢情愿的礼物	29
私の大切な家族	32
我爱我家	33

目 录

頑張れ、自分で	36
为自己加油	38
両親に対する私の気持ち	41
一封感人至深的家书	44
新年	47
新年	49
私の子育て	52
我的教子之方	53
名づけられた理由	56
名字的由来	58
父親ウゼエとか思ってる全ての娘たちへ	61
致抗拒父亲的女儿们	64
何か大切なもの	67
最重要的东西	68
父と子供たち	71
父亲和孩子们	73
父と私	77
父亲和我	78
父の決断	81
父亲的决断	83
母の愛、父の愛	87
父爱和母爱	89

娘への遺書美穂へ	93
写给女儿的遗书	95
最愛なる父	98
父亲，我的最爱	100

第二篇 感悟母爱

美しい母の顔	104
漂亮妈妈	106
母と私	108
母亲和我	109
長い廊下	112
长长的走廊	114
息子の夏	117
儿子的夏天	118
最高のおくりもの	121
最棒的礼物	124
「息子がくれた『縁』」	127
儿子带给我的“缘分”	129
恋はまっしぐら	132
爱情就该勇往直前	133
寒い晩の思いやり	136
寒夜的关怀	137

目 录

最後の弁当	139
最后的盒饭	142
おいしい記憶が息子に私たち家族にくれたもの	145
美味的恩賜	148
私の夕食の支度	152
准备晚饭	154
母の日のプレゼント	156
母亲节的礼物	157
手を握って	160
牵起女儿的手	162
いってらっしゃい	165
一路走好	167
絆	171
牵挂	173
手紙	177
信	178
ありがとう	181
妈妈，谢谢您	182
おねしょ	184
尿床	186
お母さんのような人	189
恩师如母	191

コーチングを使って子育てコミュニケーション NO1	194
交流是教育孩子的最好方法	195
私の母	198
我的母亲	200
親子で2泊の旅行。母は偉大なり	202
母子二人的旅行	203
母への追慕	206
追忆慈母	209
かあちゃん、ありがとう	212
妈妈，谢谢您	214
母の生命保険	218
妈妈的人身保险	219
母を泣かしてしまった	222
我把妈妈惹哭了	223

第三篇 感受亲情的温良港湾

私の姉	228
我的姐姐	230
妹の気持ち	234
妹妹的心情	236
おいしい食卓	239
美味餐桌	242

目 录

由香里、頑張れ	245
由里香、加油	247
わが家の食事	250
我家的饭桌	251
身内の深まり	253
家人的牵挂	255
私の大切な家族	258
我心爱的家人	260
私の弟	263
我的弟弟	265
我が家のおいしい料理	268
我们家的美味	270
大好きなおじいちゃん	272
最亲爱的爷爷	274
お兄ちゃんはわるくない	277
哥哥没有错	278
天国からの贈り物	281
来自天国的礼物	283
ごめんね、おばあちゃん	286
对不起，奶奶	288
おばあちゃん	291
奶奶	292

感悟父爱

高尔基说：父爱是一部震撼心灵的巨著，读懂了它，你也就读懂了整个人生！总有一人将我们支撑，总有一种爱让我们心痛，这个人就是父亲，这种爱就是父爱。父爱无形，细心品读，我们会痛，痛过之后，我们要学会珍惜，学会豁达，学会理解，理解父亲，理解人生……

父亲同时承担了母亲的责任，一个人付出了双份的爱，这份爱是那样深沉、宽广……

父との会話

今日も疲れた顔をして帰ってきた父に、我が家で「お帰りなさい」と言うのは祖母だけ

だ。私がそんなことを思い返すのは、たいてい家族のみんなが寝静まった後だった。

我が家は、父と二人の妹、祖父と祖母、そして私の六人家族だ。母は、私が八歳の時に他界した。私の父は、よく喋るタイプではなく、ひたすら読書をしていたり、考え事をしているタイプの人だ。怒ることはほとんどなく、新聞やテレビのニュースでしょっちゅう目を潤ませている、そんな人でもある。

しかし私は、父のことが大嫌いだった。その理由が聞かれても答えられない。特に理由があったというわけでもなく、近くにいたくないとか、そんなくだらない話だ。私と同じくらいの歳の女の子なら、誰もが経験していることだろう。

今は、父を完全無視するような状態ではなくなったが、お互いにゆっくり話をする機会もない。そんな私に続くかのように、二人の妹達は今まさに、かつての私と父のような状態にあるのだ。

そんな中、「父拒絶時代」を卒業した私が思うのは、親子の会話の大切さだ。私は父ともっと話がしたいと思っている。だが、それをなかなか実行に移すことができない自分がいる。

私たち三姉妹の親は、現在この世でたった一人、父だけしかないのだ。それにもかかわらず、私たちと父との会話はめっ

たにないと言えるに等しい。「ちょっと」「あ、そう」「別に」といった、会話なるものとはまったく似ても似つかない言葉だ。妹たちが何を思うのかは分からないが、私はそれがなんとなく寂しく感じる。

よその家の女の子は、お父さんと何を話しているのだろうか。聞きたくてもそんなことは聞けない。問いかけ以前に、私は直感的にこう感じてしまう。「普通の女の子は、きっとお母さんと話をするんだろうな。」と。女の子の話し相手は、やはり同じ女性である母親が一番だろう。しかし、我が家には男親しかいない。そのことに苛立ちを感じ、父を拒絶していた頃、私はこの上なくひどいことを思ったことがある。「いなくなったのが、お母さんじゃなくて、お父さんだったらいいのに。」と。直接口にはしなかったが、そんなことを少しでも思ってしまった自分に、今でも怒りが込み上げてくる。

私が八年前に母を亡くしたのと同時に、父は最愛のパートナーを失った。けれども父は、私たち家族のために毎日一生懸命働いていてくれる。父がいなかったら、私たち家族はどうなってしまうか分からない。もしも私が、父と同じように、人生を共にしていく愛する人を失ったら、生きる力なんて持つことができなくなるはずだ。だが、父は私たちのたった一人の親として、生きていてくれる。だから今、私はそんな父を、母に対する思いと同じくらい尊敬している。

私の高校入試直前の時、私は最後の保護者懇談で「ここ受けるわ」とパンフレットを見せただけだったが、父は何も聞かずに「頑張れ」と言ってくれた。父がかけてくれたその一言は心に強く響いた。それと同時に、そんな父ともっと話がしたいと思った。

近年は、両親共働きの家庭がほとんどだ。家族全員そろって夕食を食べることも、簡単ではないのかもしれない。ゆっくり

会話を楽しむ時間をつくるなんて、もっと難しい家庭もあるだろう。

それは親子の間に、話してみなければ分からない、心の溝があるからだと思う。お互いが気に入らなければ、とことん話し合うべきだ。そして両親が二人揃っている家庭なら、片親だけでなく、両親二人と会話をする機会を持ってほしい。それを、もっと早くに気づくべきだったなと、私は少し後悔している。

だからこそ私は、まず自分自身が「親子の会話」をしていきたいと思う。私が父に一言、「お帰りなさい」と言うことから、会話が始まるのではないかと思っている。妹たちにも、それを理解してもらえるように、私なりに努力していくつもりだ。

私の母は若くしてこの世を去り、我が家に大きな悲しみを残していった。だがそれは、家族全員が背負って生きていく「宿命」なのだと思う。それと同時に、私たち家族は「運命」という名の道を歩むこととなったのだ。「宿命」とは「宿る命」であるが、「運命」とは「運ぶ命」である。「運命」は自分たち次第で変えていける。私たち家族は決して、かわいそうだとか不幸だとかいう家族なんかではない。

母が亡くなって以来、悩みや不満は多くなった。誕生日の手作りケーキもなくなった。

家族旅行や外食はほとんどしなくなった。それでも私は今、自分が帰ってくる場所に生まれてきたことを、心から良かったと思える。それは何よりも、私が父や母、家族みんなのことが大好きだから言えることである。

私のめざす家庭。それはいつでも誰かの声が聞こえ、あたたかい風が吹いている、そんな家庭だ。きっと天国の母も、そういう日が来ることを待ち望んでいるだろう。



品味父爱

今天父亲和往常一样，带着一副疲倦的面容回来了。在我们家，只有奶奶会对爸爸说“回来了”。当我再次想起这件事的时候，夜已深人已静，家人也已沉沉睡去。

我们家有六口人，父亲、两个妹妹、爷爷、奶奶，和我。母亲在我八岁的时候离开了这个世界。父亲不是那种善于言谈的人，平时总是一个人专心地看书，或是思考事情。他几乎从未跟我们发过脾气，看报纸或电视新闻的时候，还时常感动得落泪。

可是，我曾经很讨厌父亲。理由我也说不出来。其实也没有什么特别的理由，只是不想靠近他，仅此而已。我想和我差不多大的女孩子们，谁都有过这样的经历吧。

现在，虽然不是处于完全忽视父亲的状态。可是也一直没有机会能够好好的跟他谈谈。两个妹妹就像是随我似的，现在和父亲的关系和原来的我没什么分别。

已经过了“对父亲的抗拒期”的我，开始思考父母与孩子之间的沟通的重要性。我想和父亲进行更多的交流，但却迟迟未付诸行动。

我们姐妹三人的双亲，现在活在这个世上的只有父亲一个人了。虽然如此，我们和父亲却从没有过推心置腹的交流，尽是些“等一下”“啊，这样啊”“没什么”之类的简单对话。我不知道妹妹们对此作何感想，可我感到异常失落。

别人家的女儿们都和父亲聊什么呢？虽然很想问一下，但却羞于启齿。在问之前，直觉就已经告诉我：“女孩子肯定是和母亲交流多吧”。女孩子的聊天对象，最好还是同为女性的母亲。然而，我们家只有父亲。这让我感到焦躁，在排斥父亲的时候，我甚至

心里暗暗想过更过分的事情：“要是去世的不是母亲，而是父亲也许会比现在好一点儿……”。虽然从未说出口，但直到现在只要稍稍想起自己竟曾萌生过这么阴暗的想法，就悔恨不已。

八年前，我失去了母亲，父亲失去了最爱的伴侣。然而，父亲为了家人，每天都在拼命地工作着。如果没有父亲的话，真不知道我们这个家会变成什么样子。换作是我，若是失去了共度人生的伴侣，肯定就没有力量再生活下去。但是，父亲，作为我们唯一的呵护者，为了我们坚持了下来。所以，现在我像思念母亲一样尊敬父亲。

高中入学考试之前的最后一个环节是跟监护人谈心，那时，我只是把宣传册拿给父亲看，然后说了句“我要考这儿”。父亲什么也没问，只是说了句“加油”。父亲鼓励的一句话激起我内心无限感慨。突然间，很想和父亲再好好聊聊。

近几年，大部分家庭都是双职工。全家人聚在一起共进晚餐也不再那么容易了。要找个时间家人一起好好聊聊，就显得越发困难了。

近来，我认为父母和孩子之间有一层心里隔膜。这需要通过交流来沟通理解。在相互看不惯、不理解的时候，就应该打开心扉谈一谈。双亲家庭，更应创造一些机会，让父母二人和孩子们共同交流，而不应该只是父母中的一方。我有点后悔，若早注意到这一点，之前就不会那么抗拒父亲了。

因此，我想首先从我自己做起，进行“亲子对话”。那就从对父亲说一句“您回来了”开始吧，希望借此开始和父亲的交流。我也会努力让妹妹们理解我的想法的。

母亲在很年轻的时候就离我们而去，给我们这个家庭带来了莫大的伤痛。但是，我想这就是我们全家人要共同背负的一起活下去的“宿命”吧。同时，我们全家人也在“命运”之路上前行。所谓“宿命”就是，“固有存在的命”，而“命运”呢，是可以“搬运的命”。“命运”掌握在自己的手中，我们家绝对不是什么被人